

高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年4月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第14週(4月4日～)から第17週(～5月1日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における4月の上位6疾患の合計は18.15で3月の4週換算値16.91と比べて横ばいだった。同じ4月で比べると、過去10年間で2020年に次いで2番目に少なく(コロナ前は例年40～80台)、コロナ対策により日常的感染症は依然として抑制されている。

1位は感染性胃腸炎で14.27(3月1位4週換算値13.38)と横ばいだった。2位は突発性発疹で1.39(同2位1.03)と増加した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で0.99(同3位0.97)と横ばい、4位は流行性角結膜炎で0.58(同5位0.51)と増加した。5位はRSウイルス感染症で0.50(同4位0.66)と減少し、上位5疾患はいずれも小幅な変動であった。6位は手足口病で0.42(同8位0.24)と増加した。

〈全国の新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

オミクロン株(○株)による第6波は2022年1月に始まり、2月のピーク以降は減少が緩やかで高止まりしている。○株は、α株(英国型変異株)やδ株(インド型)に比べて、感染力が強く、潜伏期が短い(沖縄県での調査では約3日、○株以外の4.8日より短い)、肺よりも上気道で増殖、重症化しにくい、そして小児感染例が多い。○株の流行は収まる気配はないが著しく軽症化したので、医療現場は逼迫を免れている。ウイルス変異株は同じ○株ではあるが、当初の亜種BA.1.1からBA.2に、国内での主流が置き換わった。3回目の追加接種の実施率は高齢者を除けば伸び悩んでいる(表3)。

世界的には、患者数は5億1千万人を、死亡者は625万人を超えた(図1;5月11日時点)。患者数を国別にみると、1位米国(8,205万人、人口あたりの感染率24.94%)、2位インド(4,310万人、感染率3.15%)、3位ブラジル(3,059万人、感染率14.50%)、4位フランス(2,921万人、感染率44.85%;感染率はトップ)、5位ドイツ(2,550万人、感染率30.54%)、6位英国(2,232万人、感染率33.07%)、7位ロシア(1,797万人、感染率12.32%)、8位韓国(1,765万人、感染率34.47%)、9位イタリア(1,687万、感染率27.87%)、10位トルコ(1,504万人、感染率18.04%)である。人口当たりで見ると韓国、フランス、ドイツでの増加が著しい。

日本の患者数を図1右に示す。2021年4月～6月はα株、7～8月はδ株の流行による患者急増と死亡がみられた。9月以降は増加がゆるやかとなり、ワクチンの効果と思われた。しかし、2022年に入って○株による感染爆発(第6波)が起き、記録的な患者増加となった。2月頃には、初めて1日の国内感染者数が10万人を超え、2月上旬の時点でピークアウトしたが、その後高止まりしている。月間患者数は2月約200万人、3月約140万人、4月約120万人と減少は緩やかである。5月11日現在の国内感染者は8,172,238人、死亡者は29,894人となった。3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークを過ごしたのちに、患者数増加は都市圏から地方に移ったようにみえる。

高齢者ほど重症化しやすいが、第6波に突入して致死率が低下している。各年齢層の死亡率の推移を図2に示す。δ株が流行した昨8月～9月までと、○株による第6波までとで致死率を比較すると、80代以上 約14%→6.7%70代 約5%→2.3%、60代 約1.4%→0.6%と半減しており、変異株の軽症化は明らかである。

経時的な年齢層別患者数を図3Aに、4月26日時点で累積感染者数が人口に占める割合を図3Bに示す(総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>)。感染者の割合は、10歳未満が急速に増加し、20歳代を凌駕し10.60%(100人当たり10人強が感染)、次いで20代が10.34%、10代の9.58%、30代8.41%、40代6.22%と続いている。当初は子どもがかかりにくい成人の感染症であったが、ここに来て「新型コロナは子どもに多い感染症」に変わった。保育施設に通う乳幼児の感染増加は、多彩なエッセンシャルワーカーと呼ばれる職種(医療職を含む)において労働力不足を招き、医療現場では新たなかたちの逼迫を招いている。○株が軽症であることを勘案すると、当該感染症に対する考え方を見直す必要性に迫られていると感じられる。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎	2.93	3.54	4.09	3.71	14.27
2	突発性発疹	0.29	0.33	0.38	0.39	1.39
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.21	0.25	0.29	0.24	0.99
4	流行性角結膜炎	0.15	0.14	0.15	0.14	0.58
5	RSウイルス感染症	0.10	0.13	0.13	0.14	0.50
6	手足口病	0.07	0.09	0.12	0.14	0.42

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

日常的感染症は依然として低調である。高知県の4月の上位6疾患の合計は13.38で3月の4週換算値13.57と比べて横ばいで、全国よりも少なかった（表2）。過去10年の同じ月で比べると最も少なかった（コロナ前の2019年以前は30～100台）。

1位は感染性胃腸炎で9.71（3月1位4週換算値11.06）と減少し全国よりも少なかった。2位は突発性発疹で1.37（同2位0.77）と増加し全国と同等だった。3位は咽頭結膜熱で0.94（同3位0.57）と増加し全国よりも多かった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で0.63（同3位0.57）と横ばいで全国よりも少なかった。5位は水痘で0.40（同5位0.34）と増加し全国よりも多かった。6位は流行性角結膜炎で0.33（同6位0.26）と増加し全国よりも少なかった。

〈高知県のCOVID-19〉

高知県におけるCOVID-19の月別患者数と死亡者数を図4に示す。2021年8月は東京五輪とともに急増し計1,382人に昇った（8月25日に1日最多の111人）が、9月の632人を境に減少し、11～12月の小休止をはさんで、2022年1月4日から急増し第6波に突入（2月11日には最多の310人）した。3月、4月と減少幅は小さく、高止まりしている。GWの人流で5月は患者数増加に転じ、5月10日に最多の366人を記録した。5月11日時点の集計では感染者は23,550人、死亡は1か月で6人増えて107人となった。集団発生（クラスター）は再増加する傾向があり（図5）、当初から対策が講じられた飲食店等に加えて、医療機関、高齢者施設、学校や乳幼児施設でのクラスター発生が続いている。

1月以降に高知県で検出、解析されたウイルス変異株の内訳を図6に示す。1月4日採取の検体から県下で初めてo株が検出された。1月上旬の大半はδ株であったが、1月中旬以降にo株（BA.1.1）が増加し、主たる流行株に置き換わった。3月中旬になってo株の亜種であるBA.2が検出されるようになり、4月以降に主流株になった。

感染者の年齢分布を第5波（δ株が流行した8～9月）と第6波（o株による1月～5月）とで比較し図7に示した。第5波に比べて第6波では、10歳代以下の増加が顕著である。

県の対応ステージは、2021年8月19日に「非常事態（紫）」に引き上げられたが、10月28日には「感染観察（緑）」に引き下げられていた。しかし、第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」、同14日に「警戒（オレンジ）」、20日に上から2番目の「特別警戒（赤）」に引き上げられ、さらには、2月12日～3月6日まで本県に「まん延防止等重点措置」が適用された。3月24日には病床利用率の低下を受けて「警戒（オレンジ）」に一段階引き下げられ、5月16日現在に至っている。コロナワクチンについては、3回目のブースター接種が進められ、3月から5～11歳の小児への接種が開始された。12～19歳でも2回接種を受けた者が71.4%に昇っている。高齢者（65歳以上）の83.5%が3回目接種を済ませている（表3）。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		1.46	3.25	2.43	2.57	9.71
2	突発性発疹		0.36	0.54	0.18	0.29	1.37
3	咽頭結膜熱		0.07	0.29	0.29	0.29	0.94
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.07	0.21	0.21	0.63
5	水痘		0.07	0.18	0.11	0.04	0.40
6	流行性角結膜炎		0.33	0.00	0.00	0.00	0.33

図1,2022年5月11日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

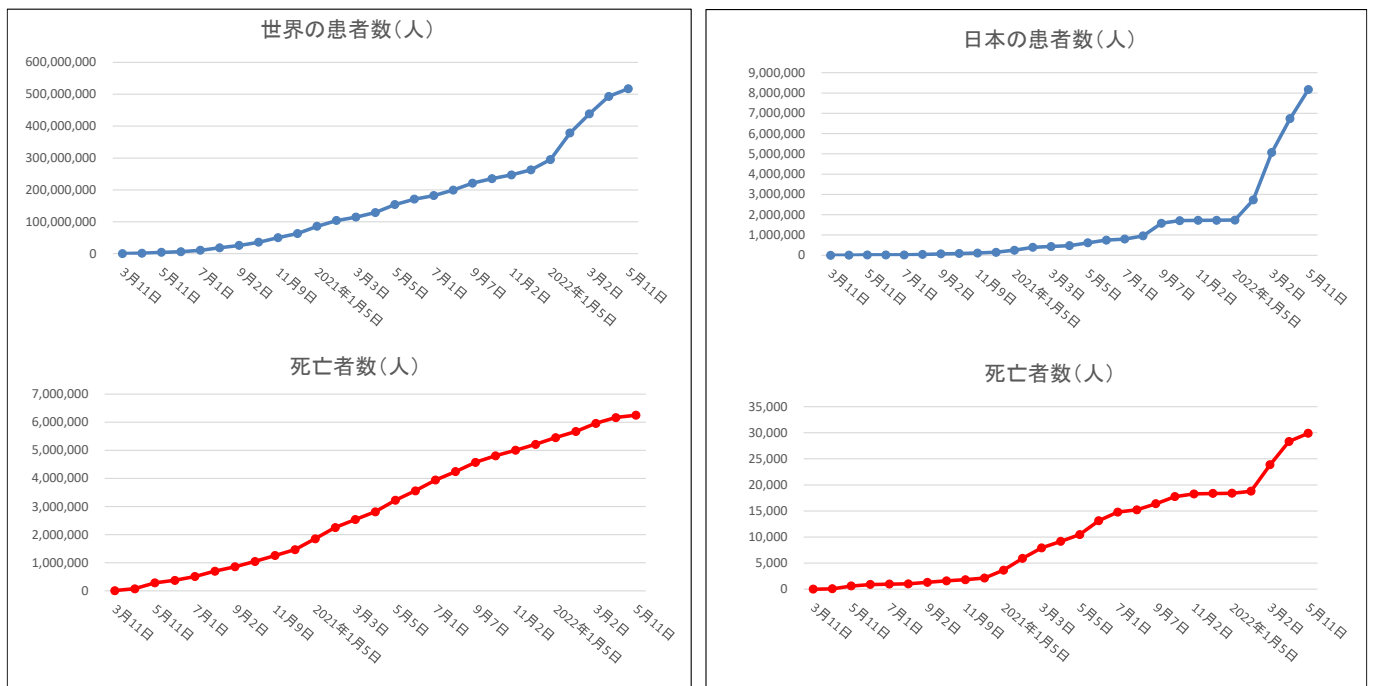
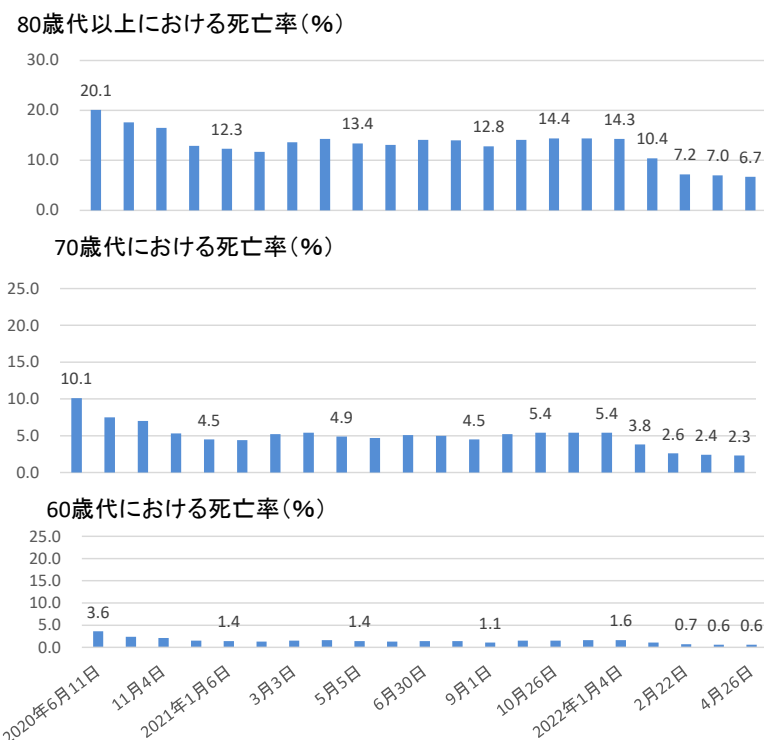


図2.高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移



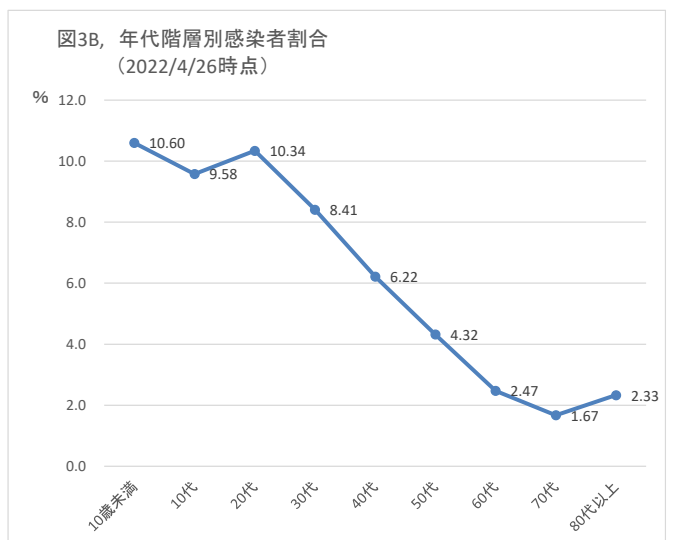
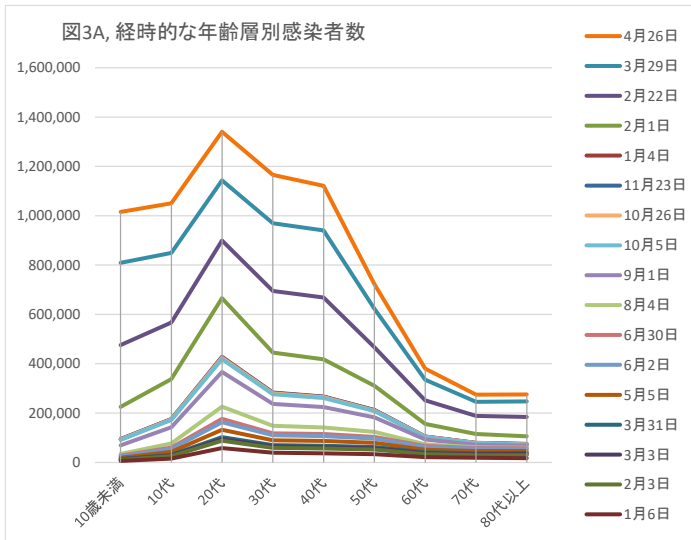


図4. 高知県のCOVID-19月別患者数(上)と死亡者数(下) ~2022年5月11日

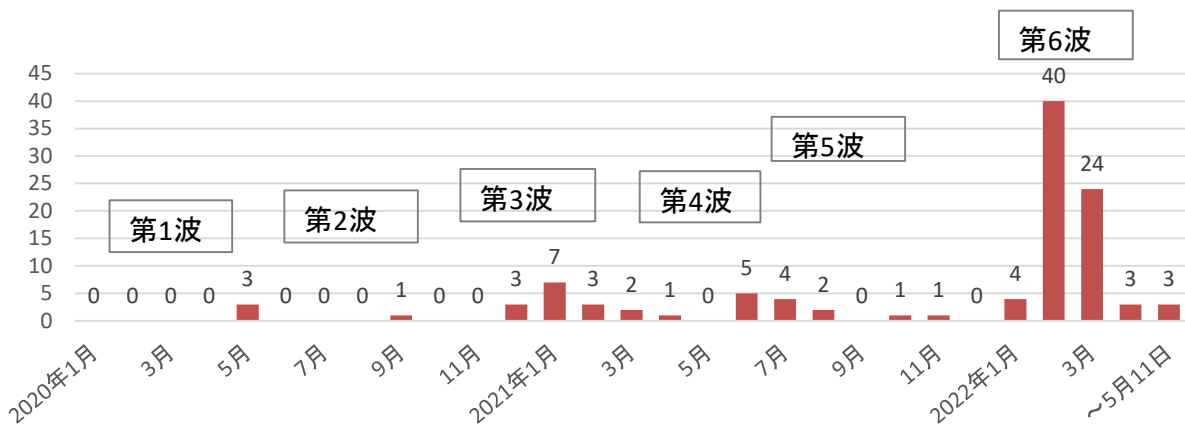
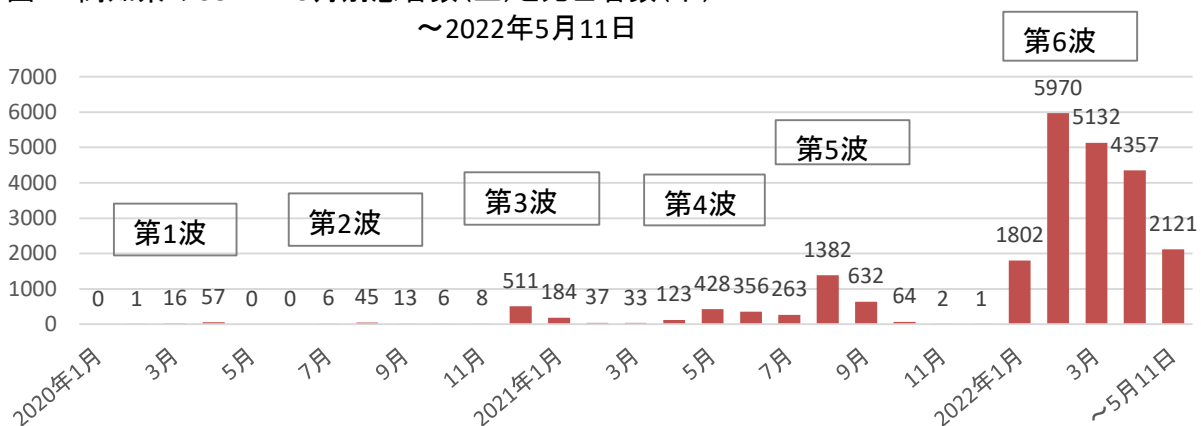


図5. 県下のCOVID-19集団発生件数(2022年)

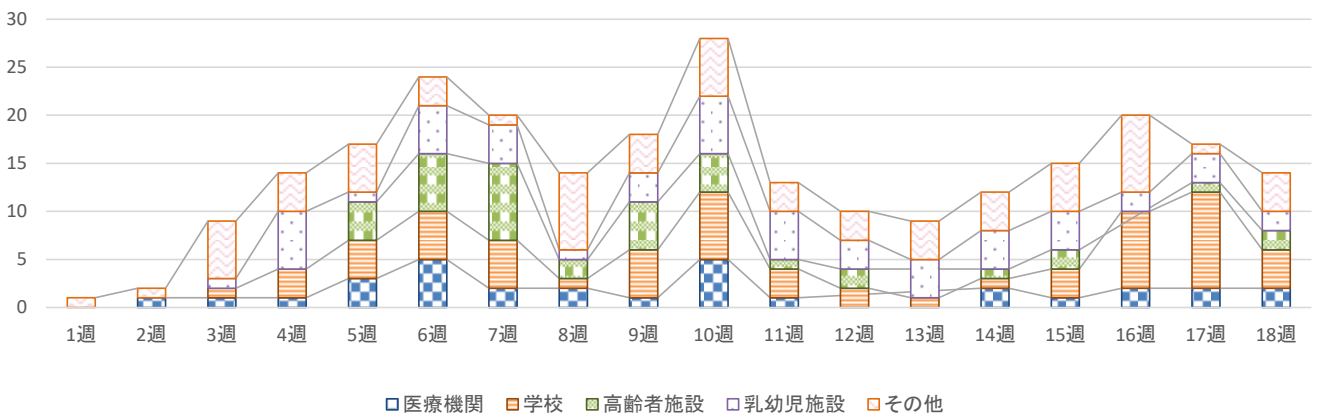


図.6 高知県で検出されたウイルス変異株の内訳

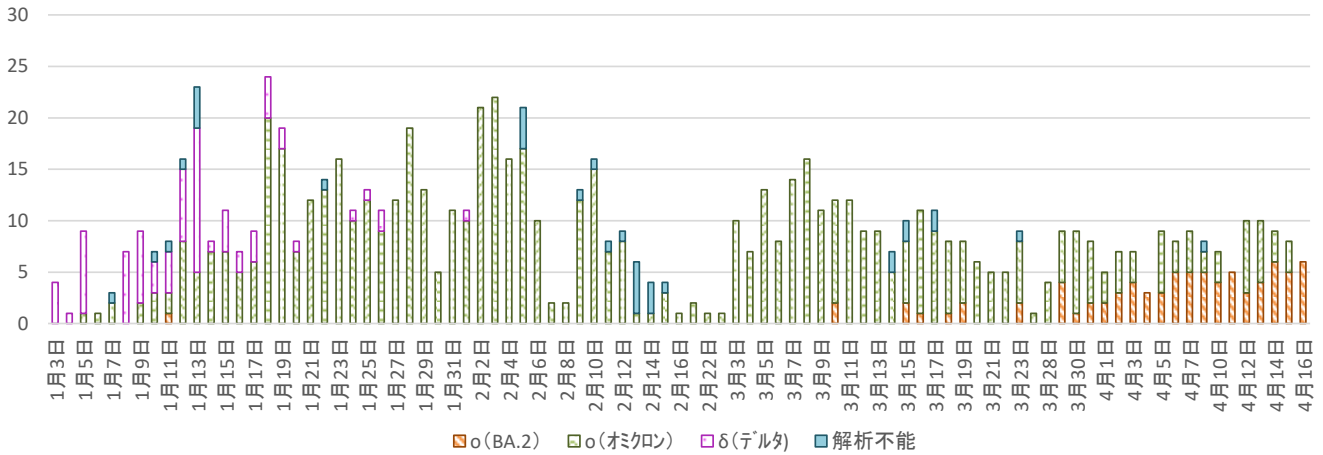


図7 高知県COVID-19患者の年齢別比率

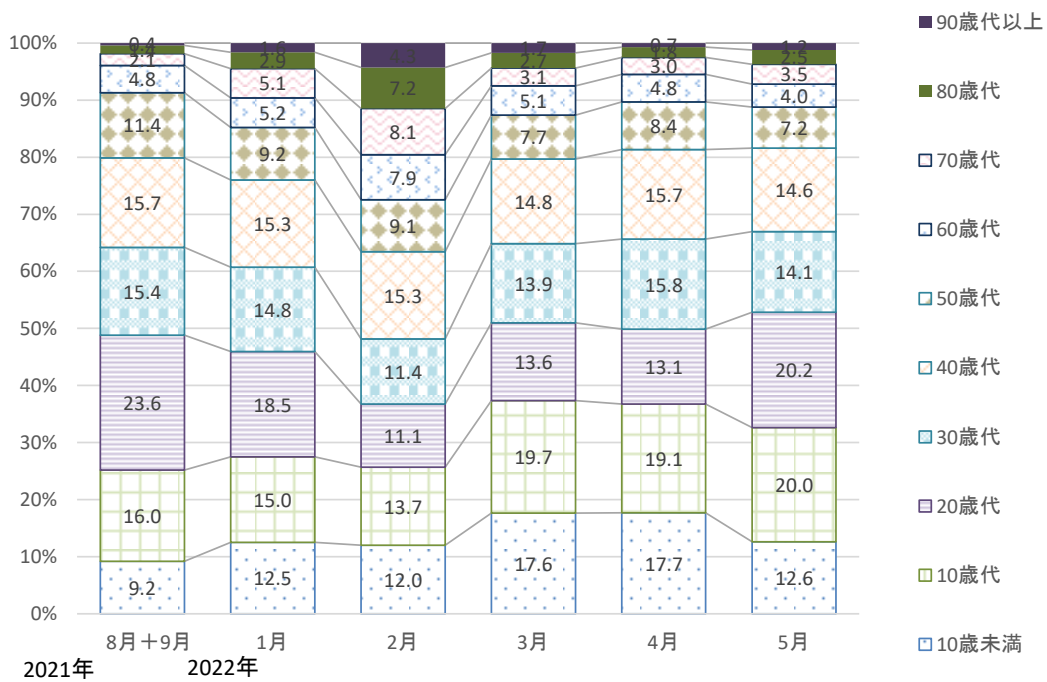


表3 高知県における年代別コロナワクチン接種率 (5月8日時点)

	2回目	3回目
全国(対象者)	83.2%	59.9%
県全体(対象者)	81.7%	59.5%
高知県 65歳以上	90.4%	83.5%
同 60～64歳	86.8%	72.4%
同 50代	86.3%	61.9%
同 40代	79.0%	43.5%
同 30代	75.2%	35.7%
同 20代	77.7%	32.3%
同 12～19歳	71.4%	14.1%
同 5～11歳	9.9%	-

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。COVID-19流行による衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての病原体を検出する事業を1月から再び休止している。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名 (3月 0名)。2020-21年に続いて2021-22年シーズンも流行がなく、これは統計がある1998年以降で初である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 26名 (3月 20名)。新型コロナで日常感染症が減る中、多めで推移している。過去10年では2021年に次いで多かった。高知市、須崎、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。アデノウイルスとの関連が否定できない小児の重症肝炎が世界的に報告されており注目されている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 18名 (3月 20名)。この時期として過去10年間で最も少ない報告数であった。安芸以外から報告があった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 272名 (3月 387名)。この時期としては過去10年で2020年に次いで少なかった。県下全域から報告があり、特に多かったのは中央西、幡多、高知市、須崎であった。

5) 水痘

報告数 11名 (3月 12名)。ここ10年で最少であった。須崎、安芸、幡多、高知市から表記の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 5名 (3月 1名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。後者の流行が年を越えていたらと続いた。2021年は、7月から増加を続けたが10月には減少に転じ終息していった。高知市から3例、中央西、中央東から各1名が報告されたが、まだ本格的な流行ではない。

7) 伝染性紅斑

報告数 2名 (3月 0名)。2020年9月以降は1けたの報告数が続いている。中央東と高知市から各1名が報告された。

8) 突発性発疹

報告数 38名 (3月 27名)。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 0名 (3月 0名)。2021年は5月に流行が始まり、同時期としては過去10年で最多となり早い流行となった。6月、7月となだらかに増加して平年並みの流行規模に落ち着き、9月に再度増加したが10月以降減少し終息した。本年の流行は未到来であり、例年流行は夏にみられる。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 0名 (3月 5名)。2020年10月から2022年1月まで同時期として過去10年で最少が続き、2月以降も少ない報告数が続いている。

11) RSウイルス感染症

報告数 1名 (3月 2名)。この時期としては過去10年間で最も少なかった。中央東から1名が報告された。2020年は、11月～3月は異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名と減少に転じ、9月193名、10月以降は終息した。2021年夏は季節外れの爆発的流行があったが、その後は秋以降に流行がなく、季節性が逆転している。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名 (3月 1名)。高知市で1名の報告があった。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（3月 1名）。年間10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（3月 0名）。従来は年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく、今年もゼロが続いている。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 2名（3月 0名）。高知市から2名報告された。2020年11月以降は、同時期として過去10年間で最少が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 20名（3月 27名）。平年並みである。高知市、安芸、中央東、幡多から報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（3月 0名）。2020年1月以降は報告がない。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和4年4月）

類型	病名	報告月				総計
		1月	2月	3月	4月	
2	結核	6	5	8	6	25
4	E型肝炎				1	1
	重症熱性血小板減少症候群			1		1
	レジオネラ症	1				1
5	アメーバ赤痢	2				2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			1		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1			2
	侵襲性肺炎球菌感染症			2		2
	水痘（入院例に限る）			1		1
	梅毒	2	4	4	6	16
	破傷風			1		1
総計		12	11	19	15	57

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2022年 4月

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ										
小児科	咽頭結膜熱			3	14		3	6	26	20	30
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	8	1	2	4	18	20	41
	感染性胃腸炎	11	37	90	46	17	71	272	387	763	
	水痘	1		2		6	2	11	12	15	
	手足口病		1	3	1				5	1	11
	伝染性紅斑		1	1					2		3
	突発性発疹	1	5	23	3	5	1	38	27	63	
	ヘルパンギーナ										63
	流行性耳下腺炎									5	6
	RSウイルス感染症		1						1	2	6
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1					1	1	3
STD	性器クラミジア感染症			3					3	3	1
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症			1				1	2		2
基幹	細菌性髄膜炎									1	2
	無菌性髄膜炎										1
	マイコプラズマ肺炎			2					2		2
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			1					1	2	
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	3	1	15				1	20	27	16
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計			16	52	164	51	33	86	402	508	1,028
前月			37	146	295	62	59	171			
前年同月			28	55	150	33	12	52			
小児科定点数			2	7	9	3	2	5			

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

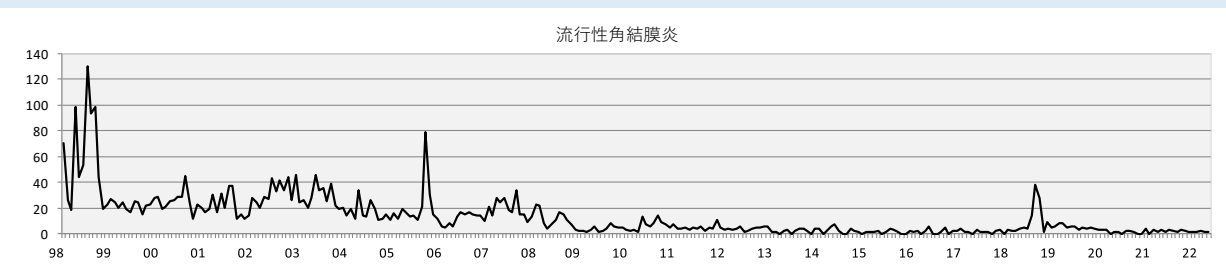
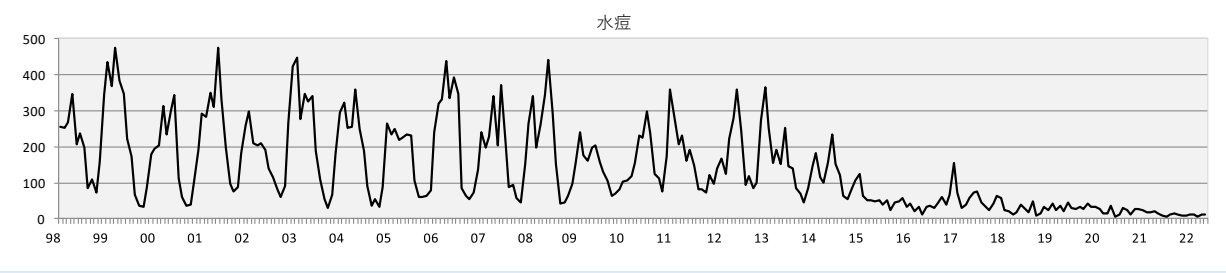
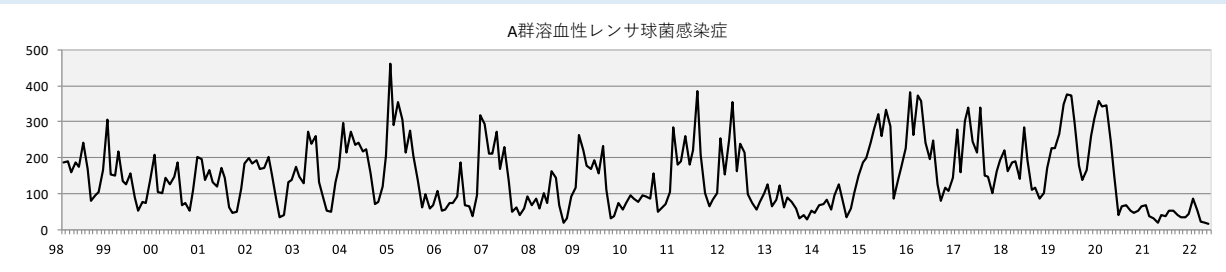
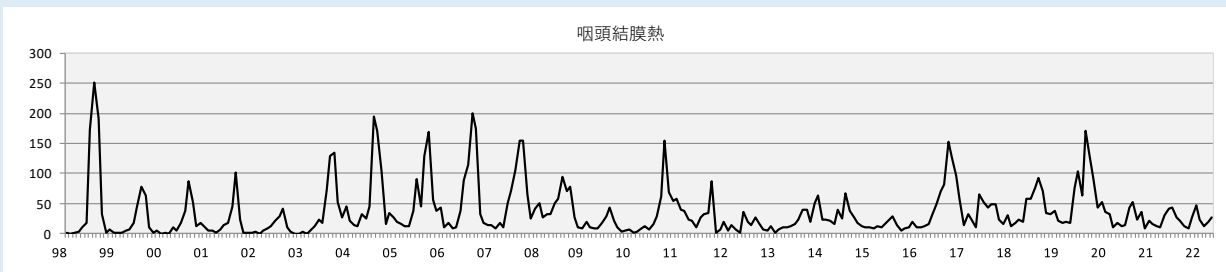
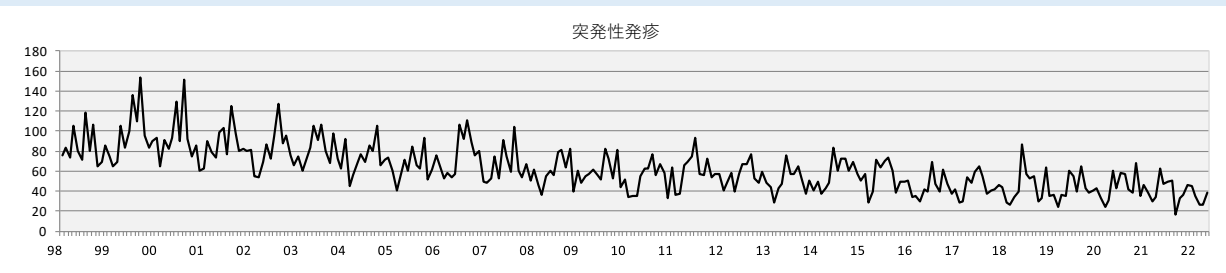
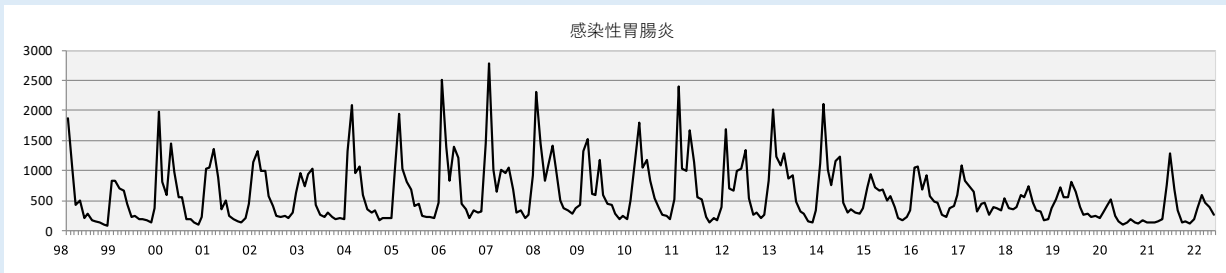
2022年

4月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								0.15	0.02
小児科	咽頭結膜熱		0.43	1.55		1.50	1.20	0.94	0.85	0.44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	0.88	0.33	1.00	0.80	0.63	1.97	1.17
	感染性胃腸炎	5.50	5.29	10.00	15.34	8.50	14.20	9.71	21.57	5.78
	水痘	0.50		0.22		3.00	0.40	0.40	0.47	0.60
	手足口病		0.14	0.33	0.33			0.18	0.12	0.57
	伝染性紅斑		0.14	0.11				0.08	0.12	0.22
	突発性発疹	0.50	0.72	2.55	1.00	2.50	0.20	1.37	1.25	1.06
	ヘルパンギーナ								0.04	1.07
	流行性耳下腺炎								0.04	0.04
	RSウイルス感染症		0.14					0.04		
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.99
STD	性器クラミジア感染症			1.50				0.50	0.50	0.17
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									0.17
	淋菌感染症			0.50			0.50	0.33	0.33	
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.26		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			0.20				0.13	0.13	0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3.00	1.00	3.00			1.00	2.50	2.13	2.00
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		6.50	7.29	15.64	17.00	16.50	16.80	13.35	26.58	10.97
前月		18.50	20.85	30.22	20.67	27.75	34.00			
前年同月		14.00	7.42	14.65	11.00	5.75	10.20			

注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																					総計					
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022		
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	25	1900		
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	25	1900		
3	コレラ	1					1						1													3		
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2						27		
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1			207		
	腸チフス		1						1									1				1				4		
	パラチフス	2																								2		
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	0	243		
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			2				34		
	E型肝炎											1		1								2	1		1	6		
	オウム病			1		1														1						3		
	Q熱	1	1	2				1																		5		
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	9	6	4	1	54		
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1			94		
	デング熱												1			3	2	1				2				9		
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16		211		
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1													6		
	マラリア								2					1								1				4		
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	1	90		
レプトスピラ症											1		4	2	1					1					9			
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	3	525		
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	2	50		
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1				2	1	1	2	2	62		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10	5	1	126	
	急性弛緩性麻痺																					1	2				3	
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1		22		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		1	36		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5	3	36		
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6			81		
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1						1					8		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	2	27		
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9	2	109		
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3		3	3	1	14		
	髄膜炎菌性髄膜炎									1																1		
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	16	343		
	播種性クリプトコックス症																			1	3	5				9		
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	1	37		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							1		1					5		
百日咳																					173	172	35	3	383			
風しん										1	1				4	9	1				3				19			
麻しん											5														5			
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	29	1376		
新型	新型インフルエンザ																									34		
	新型コロナウイルス感染症																								663	3505	4168	
	計																								34	902	3505	4441
動物	鳥インフルエンザ																									1		
	計																									1		
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	1116	3726	57	8486		